

NSTIMES7月号

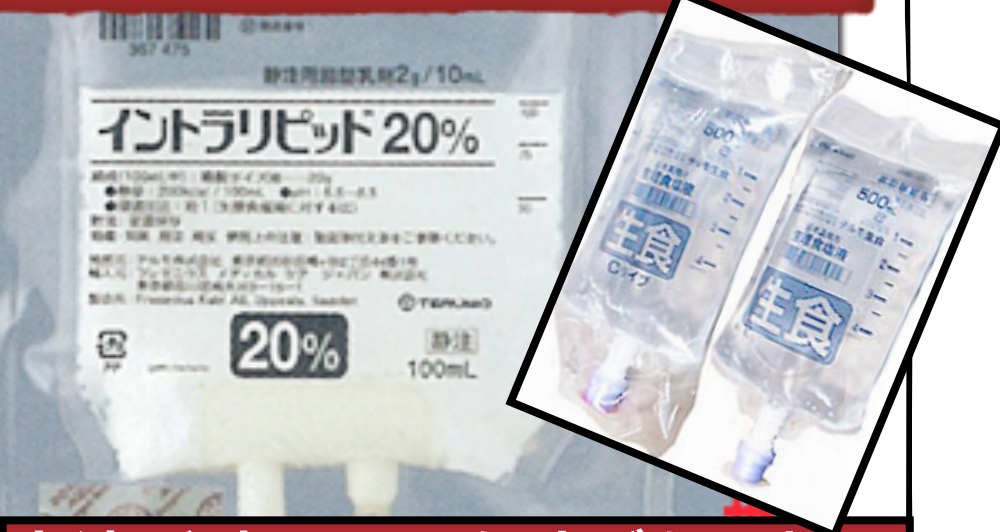
イントラリピッドが詰まるのか？

先日、ある診療科で、イントラリピッドが単独投与のために、投与終了後に輸液がとまった状態になり、静脈路が詰まるために2時間で落としていた、ゆっくり投与せねばならないことはわかっているのだが・・・という話を聞きました。イントラリピッドが単独投与である理由としては、

A:感染に非常に弱い

B:2価の陽イオンであるCa²⁺などと混ざると、脂肪のミセルの大きさが増大し、それが肺血管や微小血管につまる可能性がある。

事があげられます。ただ、投与速度が**0.1mg/kg/day**より上げると前々回のNSTimesで書かせていただいたとおり、**トリグリセリドの増大、網内系細胞に貪食され、免疫能の低下**を引き起こします。脂肪の利用にはカルニチンが非常に重要ですが、感染症の患者さんにはカルニチン欠乏症が高率に合併します。



点滴が詰まるのを防ぎたい場合、5%糖液か生食をメインで流して側管からイントラリピッドを流しましょう

感染症、またその他の重症患者さんへの脂肪乳剤投与は、脂肪肝の予防、必須脂肪酸の摂取、効率のいいエネルギー摂取の点からも必要ですが、上記のような問題点もありますので、出来るだけゆっくり投与しましょう。対策として本管か

ら生理食塩水や5%Tzを緩徐に流しながら側管からイントラリピッドを投与する場合はそんなに詰まったりすることは多くはありません。是非試して頂き、イントラリピッド自体はゆっくり落として安全かつ効果的に使っていきましょう。

スタッフ勉強会	第75回NCM講演会
場所：和室	場所：会議室10
日時：7/18 18時から	時間：7/26、18時から

(ル)(ヲ) 在宅栄養・院外施設での栄養管理についての患者・家族への説明・指導

経腸栄養について
講師：東別府直紀

講師：三宅師長もしくは堤師長